

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	90人	算数	90人	理科	90人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	90人	算数	90人	理科	90人
------	----	-----	----	-----	----	-----

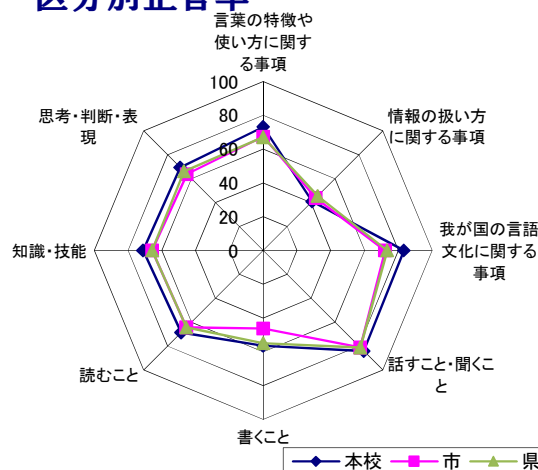
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.1	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	41.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	83.3	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	84.2	81.2	81.2
	書くこと	56.4	46.2	54.9
	読むこと	68.6	64.3	64.5
観点	知識・技能	71.1	65.7	65.7
	思考・判断・表現	69.4	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

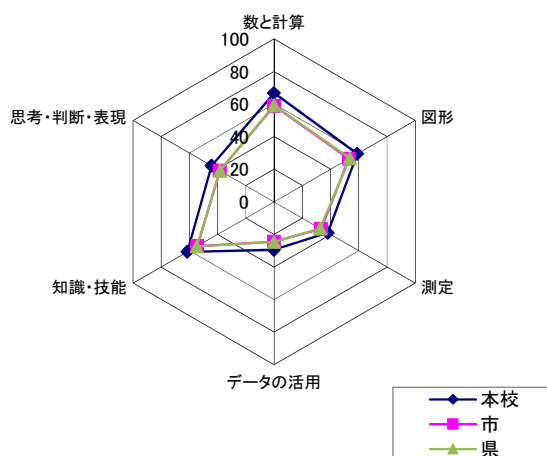
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は73.1%であり、県平均より6ポイント、市平均より5.7ポイント上回っている。</p> <p>○漢字を正しく読んだり書いたりすることや、主語と述語の関係を捉えることができている。</p> <p>●ローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題が見られる。</p>	<p>・国語に限らず、様々な教科や学習活動の中で、ローマ字を書いたり読んだりする機会を増やす。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は41.1%であり、県平均より4.6ポイント、市平均より2.7ポイント下回っている。</p> <p>●国語辞典の使い方の理解に課題が見られる。</p>	<p>・国語辞典をすぐ手に取って活用できる環境を整えている。国語辞典を活用する機会を増やし、様々な場面で言語に興味をもてるような活動を取り入れていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は83.3%であり、県平均より9.9ポイント、市平均より11.2ポイント上回っている。</p> <p>○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることを理解できている。</p>	<p>・漢字スキルに掲載されているへんやつくりの情報を扱ったり、漢字の成り立ちなどを調べたりする活動を取り入れ、へんやつくりなどを意識しながら、漢字練習に継続的に取り組ませる。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は84.2%であり、県平均、市平均より3ポイント上回っている。</p> <p>○自分の考えを説明したり、理由を挙げながら説明することができている。</p> <p>●話のつながりを考えて言葉を選ぶことに課題が見られる。</p>	<p>・自分の考えを伝えるときに、理由を挙げながら説明したり、文脈に合うような表現方法を使ったりする機会を増やしていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は56.4%であり、県平均より1.5ポイント、市平均より10.2ポイント上回っている。</p> <p>○自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことができている。</p>	<p>・さらに力を高めるために、様々な教科において、文の構成や言葉の選択を工夫し、読み手に分かりやすく伝える文を書く機会を増やす。</p>
読むこと	<p>平均正答率は68.6%であり、県平均より4.1ポイント、市平均より4.3ポイント上回っている。</p> <p>○物語文において登場人物の気持ちを捉えたり、説明文において文章の内容を捉えたりすることができている。</p> <p>●場面の様子について、叙述を基に捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で場面の様子が分かる叙述に注目させ、情景を想像するような活動を取り入れる。さらに、説明文での言葉の意味やつながりを考えながら読む力を身に付けさせる。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.7	58.9	59.2
	図形	58.9	53.0	53.7
	測定	38.1	33.1	32.6
	データの活用	29.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	61.5	54.3	54.7
	思考・判断・表現	44.4	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

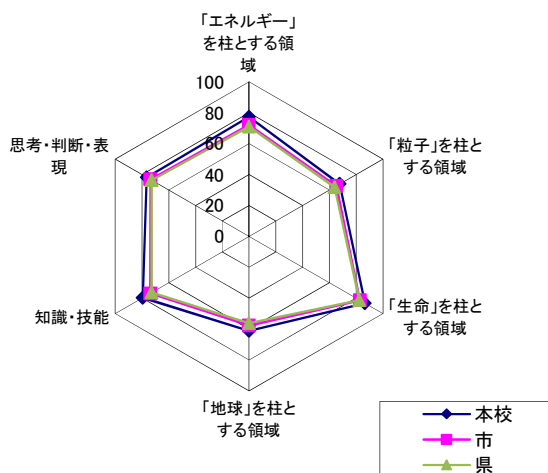
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率が66.7%であり、県平均より7.5ポイント、市平均より7.8ポイント上回っている。</p> <p>○分数の表す正しい大きさを答える設問では、平均正答率が94.4%で県平均を16.7ポイント、市平均を16.8ポイント上回っている。分数の大きさの概念がよく理解されている。</p> <p>●小数を数直線の上に表すときに、どこに位置するかを説明する設問では、県平均を5.4ポイント、市平均を3.2ポイント上回っているものの、平均正答率が33.3%と低かった。</p>	<p>・計算の反復練習を継続して行うとともに、式の意味を読み取り、仕組みを正しく捉えさせることを意識し、確実に身に付けられるようにしていく。</p> <p>・数直線の値を読み取るだけでなく、値を書き表すために目盛りを書き加える学習を単元末等に発展課題として取り入れる</p> <p>・自分の考えを深める十分な時間の確保、友達の考えに触れる場を設け、思考力を育んでいく。</p>
図形	<p>平均正答率が58.9%であり、県平均より5.2ポイント、市平均より5.9ポイント上回っている。</p> <p>○円の性質を利用して正三角形を作図する設問では、平均正答率が51.1%で県平均より11.1ポイント、市平均より12.1ポイント上回っている。用具を正しく用いて作図をすることができている。</p> <p>●球の半径を利用して箱のたての長さを答える設問では、平均正答率が50%で県平均を2.9ポイント、市平均を0.6ポイント下回っている。円の半径や直径の関係についての理解が十分ではないと考えられる。</p>	<p>・分度器やコンパス、三角定規などを用いて作図する機会を意図的に増やし、正しく作図をしたり、図形の性質を理解することができるよう指導を継続していく。</p> <p>・デジタル教科書などを用いて指導し、図形を構成する要素や特徴が視覚的に捉えるよう支援の充実を図る。</p> <p>・課題解決のために半径の長さ等の情報をどのように活用すればよいかを考えさせたり説明させたりする学習活動を取り入れる。</p>
測定	<p>平均正答率が38.1%であり、県平均より5.5ポイント、市平均より5ポイント高い。</p> <p>○地図から2つの道のりを読み取り、差を答える設問では、平均正答率が53.3%で県平均より9.4ポイント、市平均より7.8ポイント上回っている。</p> <p>●重さが同じになる組み合わせとして、正しいものを選ぶ設問では、平均正答率が25.6%で県平均より1.2ポイント、市平均より0.7ポイント下回っている。重さの単位換算に課題があると考えられる。</p>	<p>・重さや距離の単位の関係を理解できるように、日常生活と結びつけた授業や重さの単位換算を練習したりする活動を意識的に設ける。</p> <p>・はかりや数直線を使う機会を増やし、使い方や読み取りの定着を図る。</p> <p>・グラフを用いる学習の際に、グラフの縦軸・横軸が何を表しているか、1目盛りがいくつを表しているかなどのグラフの基本的な読み取り方を確認し、定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率が29.4%であり、県平均より4.8ポイント、市平均より5ポイント上回っている。</p> <p>○棒グラフを読み取り、落とし物の数が一番増えた種類を答える設問では、平均正答率が54.4%で県平均を8.4ポイント、市平均を8.1ポイント上回っている。</p> <p>●示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する設問では、平均正答率が10%で県平均を0.6ポイント、市平均を1ポイント下回っている。複示されたテーマについて、適切なグラフを選んだり、選んだわけを説明することに課題が見られる。</p>	<p>・他教科との関連を図り、表やグラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、表やグラフのどの部分から考えたのかを説明する学習活動を意図的に行う。</p> <p>・資料内の棒グラフの目盛りを正しく読み取ったり、棒グラフの特徴を説明したりする場面を意図的に設け、繰り返し復習できるようにする。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	77.3	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	67.8	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	86.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	61.1	57.7	56.2
観点	知識・技能	79.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	76.5	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率が77.3%であり、県平均より6.3ポイント、市平均より5.2ポイント上回っている。</p> <p>○車を前に動かすために近づける磁石の極を答える設問では、平均正答率が80%であり、県平均を11.6ポイント、市平均を10.3ポイント上回っている。</p> <p>●手で握るとトライアングルの音が止まる理由を答える設問では、平均正答率が83.3%であり、県平均を0.4ポイント下回っている。</p>	<p>・実物を用いて実験を行ったことで、磁石の性質について十分に理解することができたと考えられるので、今後も実験活動を多く取り入れていきたい。</p> <p>・音の性質についての学習では、自分の言葉で説明する活動や友達と考えを共有する時間を十分に取り、知識を深められるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率が67.8%であり、県平均より3.9ポイント、市平均より2.6ポイント上回っている。</p> <p>○新聞紙の形を変えて測った重さがどの様になるかを選ぶ設問では、平均正答率が94.4%であり、県平均を7.7ポイント、市平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>●実験の結果から同じ体積でも種類が異なるとどうなるかを問う設問では、平均正答率が41.1%であり、市平均を1.2ポイント下回っている。</p>	<p>・形を変えても重さが変わらないことについては、粘土や画用紙を用いて実験を行ったことで十分な理解へとつなげることができたと考えられるので、引き続き実践していく。</p> <p>・実験内容とその結果の表やグラフを関連付けて考える時間を十分に取り、結果をもとに考える力を深められるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率が86.5%であり、県平均より4.1ポイント、市平均より3.7ポイント上回っている。</p> <p>○虫眼鏡の正しい使い方を選ぶ設問では、平均正答率が65.6%であり、県平均を10.9ポイント、市平均を10.3ポイント上回っている。</p> <p>●ダンゴムシが昆虫のなかまではない理由を答える設問では、平均正答率が67.8%であり、県平均を3.6ポイント、市平均を3.4ポイント下回っている。</p>	<p>・虫眼鏡の使い方など基本的な観察の仕方を繰り返し実践させたことで、知識・技能を十分に身に付けることができたと考えられるので、今後も植物の観察などで積極的に取り入れていく。</p> <p>・昆虫の体のつくりについては、興味関心をもてるように実際に児童が生き物を飼育し、観察の時間を十分に設ける。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率が61.1%であり、県平均より4.9ポイント、市平均より3.4ポイント上回っている。</p> <p>○かげでできる向きとかげふみで逃げる方向について選ぶ設問では、平均正答率が75.6%であり、県平均を6ポイント、市平均を4.8ポイント上回っている。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方を選ぶ設問では、県平均を4.1ポイント、市平均を0.5ポイント上回ったが、平均正答率が47.8%と低く、理解が不十分であると考えられる。</p>	<p>・かげと太陽の学習において、観察の対象がどの方位にあるのかを確かめる質問をしたり、記録用紙に方位を記入させたりすることで、十分な理解につながったと考えられるので、繰り返し指導を続けていく。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」という質問について
肯定的回答率は80.3%と、県平均を11.6ポイント、市平均を12.6ポイント上回っている。家庭学習として毎日自主学習に取り組んでおり、テストや授業の復習をする習慣が身につけていると考えられる。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問について
肯定的回答率は89.1%と、県平均を10.8ポイント、市平均を10.5ポイント上回っている。普段の授業や学級活動で、話し合う場面を多く取り入れることで、話し合いに慣れ、自信をもって参加できている児童が多いと考えられる。

○「社会の授業の内容はよく分かりますか。」という質問について
肯定的回答率は94.5%と、県平均を7.9ポイント、市平均を10.1ポイント、「社会の学習は、しょう来的のために大切だと思いますか。」という質問への肯定的回答率は100%と、県平均を5ポイント、市平均を5ポイント上回っている。ICTを有効活用したり、児童の興味や関心を引き出す教材や資料などを提示したりすることで、理解が深まったと考えられる。

○「地いきや社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」という質問について
肯定的回答率は83.6%と、県平均を9ポイント、市平均を7.8ポイント上回っている。日々の生活の中で、常に日頃のニュースや時事問題などを意図的に話題にすることで、児童の興味・関心を引き出すことができたと考えられる。

○「学校での役わりや係の仕事にせきにならなくていい。」という質問について
肯定的回答率は96.7%と、県平均を3.4ポイント、市平均を4.1ポイント上回っている。当番活動では、少人数で仕事に取り組むことで、どの児童にも仕事が分担されるようにしたり、係活動では、自分の個性を生かしながら、楽しく活動に取り組めるような工夫をしたりしたために児童の意欲を引き出すことができたと考えられる。

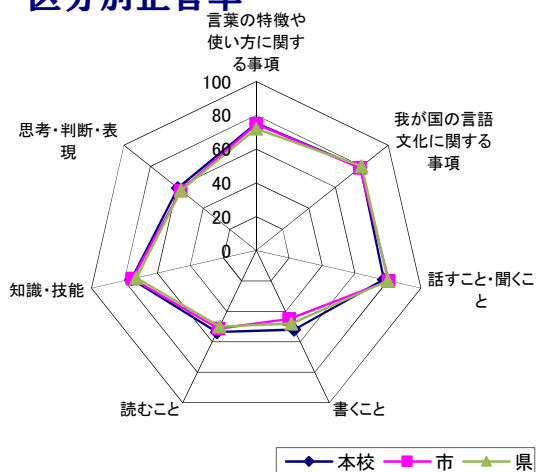
●「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」という質問について
肯定的回答率は59.4%と、県平均、市平均共に12.3ポイント下回っている。授業で、ぎ問や不思議に思っている児童のつぶやきをひろったり、疑問を自分で調べてきた児童のノートを紹介したりして、分かるまで調べたいという思いを引き出していく。

●「時間を上手に使うことを、心がけている。」という質問について
肯定的回答率は74.8%で、県平均より4.1ポイント、市平均より3.8ポイント下回っている。本校のノーチャイムを活用し、休み時間の終了時刻や授業の開始時刻などを意識させたり、時計で時刻を確認する習慣が身に付くように児童に声をかけたりすることで、日々の生活の中で常に時刻を意識させていく。

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.3	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.9	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	77.5	80.4	80.0
	書くこと	51.9	45.1	48.0
	読むこと	53.6	51.3	50.0
観点	知識・技能	75.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	59.2	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

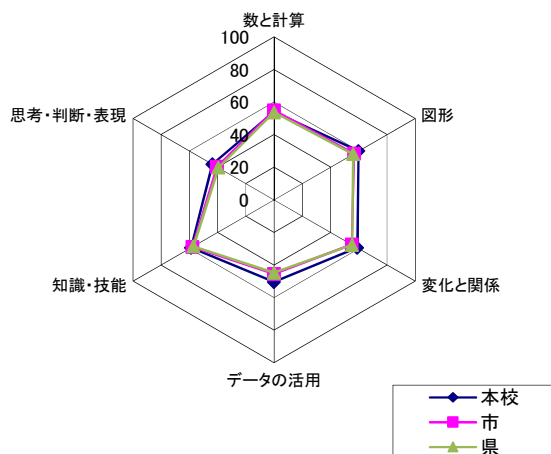
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は75.3%であり、県平均より3.3ポイント、市平均より0.5ポイント上回っている。</p> <p>○文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができている。</p> <p>●漢字を正しく書くことについての問題において課題が見られる。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習などを活用して、繰り返し漢字練習をする機会を多く設定する。また、漢字を練習する際に、その漢字を使った熟語や短文作りなども行い、使い方を覚えられるようにする。</p>
情報の扱いに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は78.9%であり、県平均より1ポイント下回っており、市平均より0.3ポイント上回っている。</p> <p>●慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いる問題において課題が見られる。</p>	<p>・今後も授業や家庭学習等において、ことわざや慣用句、四字熟語などについて、例文を作る活動を取り入れるなどして、ことわざ等に触れる機会を増やす。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は77.5%であり、県平均より2.5ポイント、市平均より2.9ポイント下回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの内容を捉えることができている。</p> <p>●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる問題において課題が見られる。</p>	<p>・国語の授業を中心に話し合いの機会を意図的に設定するとともに、意見の共通点や相違点について着目しながら聞き、自分の考えをまとめられるよう指導する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は51.9%であり、県平均より3.9ポイント、市平均より6.8ポイント上回っている。</p> <p>○指定された長さで文章を書いたり、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いたりすることができている。</p>	<p>・指定された条件に合わせて、段落を適切に使いながら事実や自分の考えが読み手に伝わるような工夫について指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は53.6%であり、県平均より3.6ポイント、市平均より2.3ポイント上回っている。</p> <p>○登場人物の性格について、具体的に想像することができている。</p> <p>●登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像する問題において課題が見られる。</p>	<p>・読書活動の充実と推進を図るとともに、物語文の学習では、人物や場面の変化を丁寧に読み取ったり、自分と対比して読んだりしながら、読み深める活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.0	54.9	53.7
	図形	59.8	56.6	56.1
	変化と関係	58.9	55.1	55.2
	データの活用	50.4	45.5	44.8
観点	知識・技能	58.9	57.8	57.2
	思考・判断・表現	43.7	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

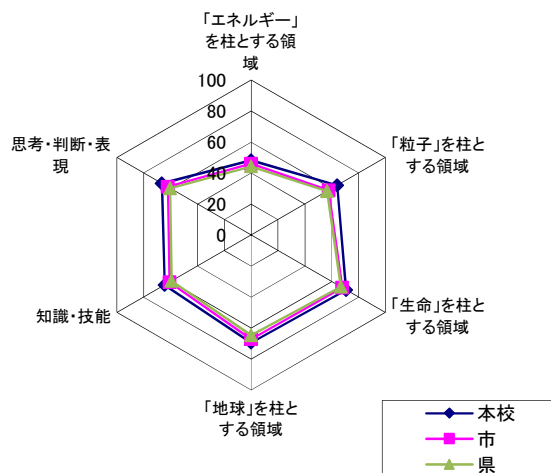
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は54%と県平均より0.3ポイント上回ったが、市平均より0.9ポイント下回った。</p> <p>○複数の数直線上に表した分数について同じ大きさの分数の組み合わせを選ぶ設問では、平均正答率が82.2%で、県平均より8.6ポイント、市平均より2.5ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●除法の性質を利用した計算のくふうについて説明する記述式の設問では、平均正答率が16.7%で、県平均より3.1ポイント、市平均より3.6ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も分数の指導においては、数直線を活用し、整数や小数、分数の大きさの関係を実感をもって理解できるようにしていく。</p> <p>・除法の性質を利用した計算のくふうについて説明する問題場面において、除数及び被除数に同じ数をかけても割っても、商は変わらないという性質を理解することで、計算が簡単になるというよさに気付けるよう指導していく。</p>
図形	<p>平均正答率は59.8%と県平均より3.7ポイント、市平均より3.2ポイント上回った。</p> <p>○面積の求め方について、示された求め方をもとに正しい式を選ぶ設問では、平均正答率が76.7%で、県平均より8.1ポイント、市平均より7.8ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●直方体の面に垂直な辺を答える設問では、平均正答率が54.4%と、県平均より3.2ポイント、市平均より6.6ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も図形の面積を求める指導においては、計算によって面積を求める際に、面積の単位や図形を構成する要素に着目し、加法、減法、乗法を用いて計算できるように指導していく。</p> <p>・図形の学習では、具体物を用いて、実際の直方体や立方体の辺や面の、垂直・平行を視覚的にとらえるよう指導していく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は58.9%と県平均より3.7ポイント、市平均より3.8ポイント上回った。</p> <p>○表を横に見て使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える設問では、平均正答率が84.4%で、県平均より4ポイント、市平均より5ポイント上回っている。</p> <p>●割合を使った比べ方について説明する短答式の設問では、平均正答率が県平均より8.4ポイント、市平均より6.5ポイントと大きく上回っているものの、正答率は37.8%と低い。</p>	<p>・今後も、伴って変わる2つの数量の学習では、表を横に見たり縦に見たりできるように支援をしながら、変化や対応の関係をとらえ、表の特徴を式に表すことができるように指導していく。</p> <p>・割合の学習では、二つの数量の関係を比べる際、除法を使って、基準の数量に対してもう一方が2倍、3倍…と表すことで、比較できることを理解できるように指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は50.4%と県平均より5.6ポイント、市平均より4.9ポイント上回った。</p> <p>○表の数が何の数を表しているかを答える記述式の設問では、平均正答率が72.2%で、県平均より4.7ポイント、市平均より5.2ポイントと上回っている。</p> <p>●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する記述式の設問では、県平均より5.6ポイント、市平均より5ポイント上回っているものの、平均正答率が14.4%と低い。</p>	<p>・今後も、整理のしかたの学習では、目的に合った分類の観点を決めたり、資料に落ちや重なりがないかを調べたりして二次元表に分類整理することで、表の数値の意味を理解し、問題解決において結果を考察する力が付くよう、指導していく。</p> <p>・折れ線グラフの学習では、2つのグラフを比べる際に、線の傾きだけで判断せず、目盛の間隔や数値に着目して、正しく読み取り、判断することができるように指導していく。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	48.2	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	64.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.7	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	69.5	67.2	64.6
観点	知識・技能	64.4	60.8	59.2
	思考・判断・表現	66.5	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は48.2%と県平均より3.9ポイント、市平均より2.2ポイント上回っている。</p> <p>○「電気のはたらき」の回路のつなぎ方について問う設問では、平均正答率が71.1%であり、県平均より10.6ポイント、市平均より10.8ポイント上回っており、乾電池のつなぎ方とその名称をよく理解している。</p> <p>●簡易検流計の針のふれ方について問う設問では、平均正答率が28.9%であり、県平均より1.3ポイント、市平均より2.4ポイント下回っており、無回答も8.9%と多いことから、簡易検流計についての知識や理解が不十分であった。</p>	<p>・理科の重要語句や実験結果についてはよく理解しており、授業や実験に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえる。今後も引き続き、目的意識をもって実験に取り組み、学習内容をしっかりと身に付けさせていく。</p> <p>・実験を行う際には、実験に用いる道具の名称や使い方について十分に説明するだけでなく、児童が実際に使う時間をしっかりと確保することで理解を深めさせていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は64.2%と県平均より7.6ポイント、市平均より6.5ポイント上回っている。</p> <p>○「とじこめた空気」について問う設問では、平均正答率が88.9%であり、県平均より4.8ポイント、市平均より3ポイント上回っており、閉じ込めた空気の性質についてよく理解している。</p> <p>○「ものの温度と体積」について問う設問では、平均正答率が91.1%であり、県平均を4.4ポイント、市平均を3.9ポイント上回っており、金属の温度と体積の関係についてよく理解している。</p>	<p>・今後も引き続き、目的意識をもって実験に取り組みせるとともに、結果を文章で記述する活動を丁寧に行い、理解を深められるようにしていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は70.7%と県平均より3.8ポイント、市平均より2.9ポイント上回っている。</p> <p>○「ヒトの体のつくりと運動」について問う設問では、平均正答率が92.2%と県平均より11.2ポイント、市平均より9.8ポイント上回っており、骨と関節についてよく理解している。</p> <p>●「生き物の一年間」について問う設問では、平均正答率が65.6%と県平均より8ポイント、市平均より8.5ポイント下回っており、季節ごとの動物の活動の仕方についての理解が不十分であった。</p>	<p>・理科の重要語句や実験結果についてはよく理解しており、授業や観察に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえる。今後も、目的意識をもって観察に取り組み、学習内容をしっかりと身に付けさせていく。</p> <p>・それぞれの季節において観察を行った生き物の様子について話し合う時間を意識的に設けることで、季節ごとの生き物の活動の様子の変化について理解を深められるようにしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は69.5%と県平均を4.9ポイント、市平均を2.3ポイント上回っている。</p> <p>○「地面を流れる水のゆくえ」について問う設問では、平均正答率が90%と県平均を9.4ポイント、市平均を6.6ポイント上回っており、地面を流れる水の様子についてよく理解している。</p> <p>●「夜空の星の動き」について問う設問では、平均正答率が60%と県平均を3.6ポイント、市平均を5.6ポイント下回っており、星の動きと星座のならば方についての理解が不十分であった。また「夜空の月の動き」について設問では、平均正答率が64.4%と県平均を1.8ポイント、市平均を1.2ポイント下回っており、月の動き方についての理解が不十分であった。</p>	<p>・観察や実験について関心が高いので、今後も、時間を十分に確保し、結果を文章で記述する活動を丁寧に行うことで、理解を深められるようにしていく。</p> <p>・星や月などを観察する場面において、観察対象がどの方位に動くのかや並び方に変化はあるかなどについて確かめる質問をすることで、繰り返し指導を行い、理解を深められるようにしていく。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」という質問について
肯定的回答率は84.9%と、県の平均を9.7ポイント、市平均を10.6ポイント上回っている。日頃から自主学習への取り組み方を指導したり、教室内や廊下掲示などに児童の自主学習ノートの取組を掲示したりしている成果が表れていると考える。引き続き、自分で計画し、学びたいことを見付けて学習しようとする姿勢を奨励していく。

○「1か月に何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」という質問について
「11冊以上」または「5～10冊」と回答した児童は57%と、県の平均を16ポイント、市平均を13.3ポイント上回っている。普段の授業での図書室の利用や朝の読書タイム、月1回のファミリー読書など、本を読む活動を積極的に取り入れてきたことで、読書習慣が自然と身に付き、読書に親しんでいる様子がうかがえる。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」という質問について
肯定的回答率は92.5%で、県の平均を9.8ポイント、と市の平均を7.3ポイント上回っている。普段の学習や生活の場面において、「岡本西小授業スタンダード」に則り、グループでの話し合い活動を積極的に取り入れた成果が表れていると考える。引き続き、少人数での話し合いを多く取り入れることで、自分の考えに自信をもてるようにし、友達の前で自分の考えや意見を発表することを経験させていく。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」という質問について
「30分以上、1時間より少ない」、「30分より少ない」、「全くしない」と解答した児童は51.7%で、全体の半数を越えている。また、県の平均より3.1ポイント、市の平均より2ポイント上回っている。日々の家庭学習の大切さを理解させると共に、家庭学習定着月間及び強化月間で呼びかけている「学年×10分+10分」(5年生の場合は60分間)の目安が定着するよう、家庭の協力を得ながら継続して学習に取り組む習慣を身に付けさせていく。

●「新聞を読んでいる。」という質問について
肯定的回答率は11.9%と、県や市の平均よりもわずかに上回っているものの、約9割の児童が普段新聞を読む機会を得ていないことが分かる。国語を始めとして様々な教科において新聞を活用する活動を取り入れたたり、司書教諭と連携して図書室の子ども新聞を積極的に紹介するなどして、新聞への興味・関心を高めていく。

宇都宮市立岡本小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
豊かに表現する児童の育成	児童個々の学びが対話的な学びにつながる言語活動の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」について 肯定的回答率が4年生では89.1%、5年生では83.9%であり、ともに市・県平均を大きく上回った。 ○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について 肯定的回答率が4年生では79.2%、5年生では76.4%で市・県平均を上回った。 ●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」について 肯定的回答率が4年生では62.7%、5年生では57%であり、ともに市・県平均を下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>各教科の誤答及び無回答率、質問紙の結果から、「自分の考えを言葉で表現すること」に課題を抱えている児童が、全体の40%程度いることが明らかになった。この課題の要因として、以下の2点が考えられる。</p> <p>①自分の考えをもつことに苦手がある。(思考力・判断力)</p> <p>②自分の考えを表現することに苦手がある。(表現力)</p>	<p>思考を促す活動や表現の機会を確保した授業の展開。</p>	<p>「自分の考えを言葉で表現すること」の課題解決に向け、以下の2点の取組を行う。</p> <p>①自分の考えをもつことができる児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習での意見交換を通して、多様な考え方に触れ、自分の考えを深める学習活動を展開する。 ・思考がより深められていくように「なぜ?」「どうして?」といった開かれた発問をしたり、答えを一つに決めつけるのではなく、多様な考え方を引き出ししたりする指導を実践する。 <p>②自分の考えを表現できる児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に国語の授業において、説明文や物語文を読み解き、文章構造や登場人物の心情を分析する活動を行う。また、自分の考えを相手に伝えるように、文章構成や言葉遣いを意識した作文活動、意見交換を通して、異なる視点や考え方を理解し、自分の考えを整理する活動等を行う。 ・思考の仕方を可視化するモデルを示すことで、児童の理解を助ける。 ・読書活動を推進し、語彙力や表現力を豊かにする。